

意思のある腕時計、タイムレスなタイムピース
クロノス日本版

Chronos

全世界初公開 F.P.ジュルヌの新型クロノグラフ

スイス時計業界再・再編はじまる
自社製クロノグラフ開発、
マニュアルクチュール化から読み解く

特別付録
オメガ30年ぶりの
自社ムーブメント
アワービジョン
3D動画DVD



注目時計
スペックテスト

EBEL
1911 BTR AUTOMATIC
CHRONOGRAPH

エベル/1911 BTR オートマチック
クロノグラフ

FERRARI ENGINEERED
BY OFFICINE PANERAI
SCUDERIA RATTRAPANTE
AUTOMATIC

フェラーリエンジニアドバイオフィチーネのスク
デリア ラトラバンテ オートマチック

PIAGET
ALTIPLANO XL
ピアジェ/アルティプラノ XL

新連載
クロノス日本版特別編纂
時計大百科事典

基幹ムーブメント立体解析
コンセプターとサプライヤーの「完璧なる愛」
リシャール・ミルの
非マニュアルクチュール宣言

時計のプリマドンナ
プレスレットの振る舞い

新作時計のトピックを凝縮 新鋭 —Watch the New—

異文化との接触で加速した スピーク・マリンのアート

ピカデリーのダイヤルをキャンバスとして展開される一点製作のアート。
新たな展開を感じさせるニューラインは、東洋・西洋の伝統工芸である。

Photographs by Masanori Yoshie, Hidehiko Umehara / Text by Hiroyuki Suzuki (Chronos-Japan)



ピカデリー

アートコレクションに加えられたギョーシェ(写真中央)と蒔絵(写真右)。上の写真はキース・エンゲルパーツ氏の手によるエングレーブの新作である。すべて価格未定。(関)東邦時計 ☎03-5807-8162



バーゼルワールドでの正式発表に先駆け、いち早く完成した作品を携えてピーター・スピーク・マリン氏が来日した。代表作のピカデリーをベースとして、ダイヤル上に展開される一点製作のアートコレクションは、これまで彫金師キース・エンゲルパーツ氏やディック・スティーンマン氏らの手による「エングレーブ」のみだったが、今年から新たに「ギョーシェ」、「蒔絵」の2ラインを展開させることになった。

約700年前からある伝統技法のギョーシェは、ダイヤルやケースに規則正しい波縞

模様を彫り込むもの。切り込みの深さの調節には、手作業ならではの力加減が必要となる。現在、完成しているギョーシェは、チェッカーボード、クル・ド・バリ、ウィンド・ミル3種の5パターンで、今後もギョーシェ職人とのディスカッションに基づいて製作されてゆく。

もう一方の蒔絵は、スピーク・マリン氏と親交の厚いキース・エンゲルパーツ氏の提案で実現したコラボレーション。加賀の蒔絵職人を紹介したのもエンゲルパーツ氏である。実際の製作では、ベースダイヤル

を日本に送って、そこに絵付けをしてゆくことになった。従来のコラボレーションでは、エングレーバーたちと密接なディスカッションを繰り返すスピーク・マリン氏だが、蒔絵に関しては、モチーフの鳳凰を指定した以外は自由に製作してもらったという。

代表作であるピカデリーのダイヤルに、ミニチュア芸術を採り入れることが理想のひとつだとスピーク・マリン氏は語る。ギョーシェや蒔絵はその一部にすぎない。氏のイメージーションが続く限り、コラボレーションの幅はますます広がってゆくだろう。



蒔絵の製作時には、メールでディスカッションを繰り返したため、製作工程を記録した画像がスピーク・マリン氏の手許に残っていた。漆の上に金粉を蒔き、研ぎ出されてゆく様子が分かる。